志の燈を灯し、まちを照らす
燈
JC LIFE
2026年10月号
JCI 一般社団法人尾道青年会議所 http://www.ojc.or.jp/ 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL：0848-20-1110 FAX：0848-20-1112 E-mail：ojc@urban.ne.jp Facebook：http://www.facebook.com/isojcnow

9月例会

2026年9月16日（水）尾道国際ホテルにて、9月例会「防災スイッチON ～その判断と行動が、自分・家族・地域を守る～」を開催しました。

ファーストレスキュー株式会社代表取締役東山幸史氏を講師にお迎えし、実際の災害現場での経験や事例から災害発生時に何を優先し、どう判断・行動するのかを学びました。グループワークでは業種や立場の異なるメンバー同士で意見を交わし、自社・家庭・地域それぞれに置き換えて考える機会となりました。

本例会をきっかけに自分自身の命を守ることの大切さを再認識し、身近な備えの見直しや家族・職場での話し合いなど一人ひとりの具体的な行動につなげていただければ幸いです。

また皆さまのお力添えにより100%例会を達成することができました。ご参加・ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

（記事：社会開発委員会　坊農 和幸）













ミニ・ミュンヘン

「子どもが主役のまちミニ・ミュンヘン in ONOMICHI」が、いよいよ始まりました！

9月19日にオリエンテーション、9月26日に第1回まちづくり子ども会議が開催されました。

オリエンテーションでは、自己紹介やグループワークを通して交流を深め、「働くこと」や「まちをつくること」について考えました。

第1回では、「どんなまちにしたいか」をテーマに意見を出し合い、投票の結果、まちの名前は「ニュー尾道シティー」に決定。また、まちで使う通貨は「お金」と、お寺の多い尾道の「鐘（ゴーン）」を掛け合わせ、「ゴーン」と名付けられました。

11月7日の本番に向けて、子どもたちの想いが少しずつ形になっています。今後の展開にもぜひご期待ください！

（記事：未来創造委員会 委員長　福森 慈大）







広島ブロック大会

9月20日（日）、第56回広島ブロック大会in竹原が開催されました。

竹原小学校体育館にて式典が行われ、ブロック役員団と県内12ＬＯＭの代表者が一同に会し、ＬＯＭ間の絆や連携を再確認する場となりました。次年度ブロック会長予定者の就任や鍵の伝達式もあり、広島ブロック協議会として次年度へ向けた新たな一歩が踏み出された式典となりました。

竹原駅前商店街ではたからいちが開催され、広島ブロック協議会の3委員会による事業が展開、尾道ＪＣから出向している亀山翔太君が委員長を務める未来構築委員会では、カーボンニュートラル体験ブースを設え、来場者の方々に楽しみながら学んでもらう場を提供、専門家の先生をお呼びし講演が行われ学びをさらに深めることができ、このほか和太鼓、吹奏楽、ダンス、地元出身のアーティストが会場を盛り上げました。

夜の大懇親会・卒業式では、全ＬＯＭの卒業予定者の皆様方が登壇・挨拶があり厳かに進行しましたが、大懇親会では卒業予定者を含むメンバー全員で盛大に賑わうこととなり、非常に大きな盛り上がりの中でブロック大会は幕を閉じることとなりました。

主管ＬＯＭの竹原ＪＣの皆様、広島ブロック協議会の皆様に心より感謝申し上げます。

（記事：総務広報委員会 委員長 徳岡 万里）

















全国大会

10月2日から4日にかけて、神戸の地で開催された第75回全国大会 神戸大会に参加してまいりました。

全国各地から多くの青年会議所メンバーが集い、「幸せな未来へ」をテーマに開催された本大会は、多くの学びと出会い、そして刺激に満ちた素晴らしい機会となりました。式典は厳かな雰囲気の中で執り行われ、全国の同志が同じ志を持って活動していることを改めて実感、その後盛大に行われた卒業式では日本ＪＣ運動のスケールの大きさを多分に感じさせられました。

その後開催されたＬＯＭナイトでは、三宮で中華料理を囲みながら親睦を深め、またカバンの伝達式では、今年度事務局から来年度へと役割と想いが引き継がれました。委員会の垣根を越えて語り合う時間にもなり、神戸の夜を満喫しつつ笑顔あふれる有意義なひとときとなりました。

多くの笑顔と思い出が生まれた全国大会となり、大会に関わりご尽力くださった全ての方々に感謝申し上げます。

（記事：総務広報委員会 委員長 徳岡 万里）

























新理事研修

2026年9月8日（火）、グリーンヒルホテル尾道にて、次年度の理事予定者を対象とした「新理事研修」を開催いたしました。

本研修では、第66代理事長である今岡正英先輩を講師としてお招きし、理事としての自覚と責任、心構えについてご講演いただきました。

ご講演では、周囲への配慮を大切にすることや、一人で抱え込まず、仲間の力を借りながら組織を運営していくことの大切さを学びました。参加者からは「周りへの配慮を大切にしていこうと思った」「理事としての覚悟を新たにできた」といった感想が寄せられ、次年度に向けて自身の役割や姿勢を考える機会となりました。









ご講演後には懇話会を実施し、今岡先輩との交流を深めるとともに、新理事の皆様に、来年度への意気込みを色紙に表し、ご自身の言葉で発表していただきました。新理事の皆様がそれぞれの想いや決意を力強く発言する姿を見て、今岡先輩から、来年度の尾道青年会議所の活動への期待を込めた温かいエールもいただきました。

本研修は、理事予定者が理事としての自覚と責任を胸に刻み、仲間とともに来年度の活動へ踏み出す覚悟を新たにする、貴重な機会となりました。ご参加頂きました皆様誠にありがとうございました。

（記事：会員能力向上委員会 委員長　徳永 雅之）

室合同委員会

9月29日、2027年度に向けた室合同委員会を開催しました。

2026年度の活動を進める一方で、次年度に向けた準備も始まっており、今回の室合同委員会は、仲間とともにこれからの一年を考える機会となりました。

次年度への抱負や活動にかける想いを共有し、交流を通じて互いのことを知る時間に。それぞれの言葉から、これから一緒に活動する仲間の熱意を感じることができました。

創立70周年を迎える2027年度、先輩方がつないでこられた尾道JCの歩みを受け継ぎながら、私たちは尾道で何ができるのかを考え、行動していきます。

この日に交わした想いを、これからの活動へ繋ぐべく、委員会や役職の垣根を越えて力を合わせ、仲間とともに2027年度の尾道JCをつくっていきます！

（記事：セクレタリー予定者　高尾 亮平）







編集後記

年の瀬が近づき、プロ野球もレギュラーシーズンが終了（今年についてはあまり思い出したくない人が多いかもしれませんが…）したのを始め、年間を通して進められる行事は終了するか或いはクライマックスに向けて佳境に入る時期になってまいりました。我々尾道JCも本事業が既に行われた委員会もあればもうすぐ実施の為そこへ向けて奔走する委員会、ロングスパンで行われ最終日を見据えて動き回る委員会と今年は実に多種多様な本事業のスケジュールとなっております。どの事業も参加者の方々を楽しませつつ地域を盛り上げていくものになることは間違いありません、乞うご期待です！　（記事：徳岡 万里）

HP

Instagram












絵のまち防災ストリート

9月27日（日）絵のまち通り商店街にて「絵のまち防災ストリート　～商店街で楽しく学ぶ、いつもの備え～」を開催しました。当日は、消火・停電・SOS・防災バッグ・100円防災アイデアの5つのミッションをはじめ、防災ワークショップ、炊き出し料理・防災食展示、防災相談ブース、災害VR体験、未来の防災グッズコンテストなど、多彩な体験型プログラムを実施しました。

あいにくの雨模様ではありましたが、多くのご家族にご来場いただき、子どもたちが笑顔で挑戦する姿や、ご家族で備えについて話し合う姿を各所で見ることができました。

今回の体験が家庭で防災について話し合い、実際の備えや行動につながるきっかけとなれば幸いです。

事前準備から当日の設営・運営・撤収まで、多くの場面で力を貸してくださったメンバーの皆さまのお力添えがあったからこそ、盛況のうちに事業を終えることができました。

本当にありがとうございました。

（記事：社会開発委員会 委員長　塚本 善昭）













卒業生スピーチ



亀田康寿

皆さん、こんばんは。卒業生スピーチはまだまだ先だと思っていましたが、あっという間にこの日を迎えました。今日は、8年間の思い出と、現役の皆さんに伝えたいことをお話しします。

入会のきっかけからお話しします。私は25歳でカメダラインに入社したのですが、その直前、平谷祐宏さんの市長選挙で選挙カーの運転手を務め、車内でJCの皆さんとお話しする機会がありました。そのご縁で、入社後すぐにお誘いをいただきましたが、当時は仕事を覚えることが優先でお断りをさせていただきました。その後も何年かいろいろな先輩からのお誘いを断り続けていると、2年ほど誰からも声がかからなくなってしまいました。「あいつは入らない」と思われたのかもしれません。ずっと断っていたのは自分ですが、誰も来なくなると、それはそれでちょっと気になってきたりもして。私も仕事を一通り覚え、これから経営者としてどうするか、このままではいけないと考えていた頃でした。そんなとき、尊敬するOBの先輩から、「JCに入っていなかったら、今の自分はない。もう一度人生をやり直しても、JCには入りたい」と言われました。今でも憧れる先輩が、そこまで言う団体なら入ってみたい。それが、入会を決めたきっかけです。

幹事を務めたのは、真の幸せを知る経営者育成委員会。岡本大輔委員長のもとで活動しました。コロナの影響で思うように集まれない中、特に印象に残っているのがUberサンタ事業です。クリスマス会の代わりに、メンバーの家へプレゼントを届けさせていただき、初めて事業に関わった経験で、今でもよく覚えています。また、高山先輩のクラウドファンディングによる打ち上げ花火や、沼田委員長のバルーン事業も見て、「JCはすごいことをするんだな」と感じた年でした。

翌年は、小西委員長、中島副委員長の総務広報委員会でした。美ノ上先輩、大本誠先輩、松本先輩もいらっしゃり、みんなで一つのことに取り組む委員会の楽しさを感じた1年でした。美ノ上先輩や大本先輩には、「JCに入ったからには、委員長をせにゃいけまぁ」とよく言われました。その頃から、自分も理事として活動したいと思うきっかけをもらえた委員会でした。

次は、沼尾委員長の会員拡大委員会です。楽しい委員会でしたが、沼尾君は次々と人を怒らせていましたね。島田昌広副委員長、横山大二郎先輩、そして高升純先輩。それでも放っておけず、なんだか助けたくなる。それが沼尾君の良さだと思います。これからも頑張っていただけたらと思います。

その後、輝くまちづくり推進委員会の委員長として、初めて理事を務めました。最も大変で、印象に残っている年です。副委員長の吉田嵩正君とは、正直、ぶつかることもあり、2か月ほど口も利かない時期もありました。その間を取り持ってくれたのが福島君でした。福ちゃんのおかげで、今では嵩正とも仲良しです。本当にありがとう。幹事を務めてくれた土井君も1年目だったにも関わらず、議案作成から実施まで本当に助けてもらいました。みんなも知っている通り、当時から土井くんが作るチラシポスターがすごくセンスいいんですよね。制作物はほぼ土井君に任せっきりでした。そのため委員長のときは土井君のいたONOMICHI SHAREに入り浸っていました。そんな土井君が来年は初理事ということで応援しています。夜は同期委員長の松本先輩と高垣先輩が会社に来て、一緒に議案をつくりながら、愚痴をこぼしたり、励まし合った時間も、大切な思い出です。一方、当時の小林先輩の求める水準があまりに高く、どう応えればいいのか、土井君や嵩正と悩んでいました。ただ、暢玄さんは、私ではたどり着けないところまで、私自身が成し遂げたように見せながら引っ張り上げてくれるんです。委員会メンバー全員が助けてくれて、自分だけでは見られなかった景色を見せていただきました。

続いて、福本委員長の地域創造委員会では、副委員長を務めさせていただきました。前年は委員長として皆さんに助けてもらったので、今度は自分が委員長を支える立場で何ができるかを考えて、この年はとにかくよく電話をしました。山本副理事長とは1日3回ほど。福本委員長からも、毎朝8時半になると「おはようございます。今日はいい天気ですね」と電話がかかってきました。2人とは本当によく話しました。事業が思うように進まないこともありましたが、何度も話すことで、3人が同じ方向を向いて進めたのだと思います。幹事の今城、万里、徳ちゃん、悠貴ちゃんも福本委員長をすごく助けてくれていて、本当にまとまりのある委員会でした。卒業するまでにピカチュウを呼んで、激走キャタピラーレースやってみたかったです。

次の年は、事務局長を務めさせていただきました。事務局長としては少しでもみんなが活動しやすく楽しめるように頑張っていたのですが、委員長の皆さん、私の長い電話に付き合ってもらってありがとうございました。ただ、仕事の都合で2か月間、急遽、休会せざるを得なくなり、支えてくれた加藤君、セクレタリーの今城、よっちゃん、慈大には、負担をかけて申し訳なく思うとともに、心から感謝しています。休会中も、山本理事長は何度も連絡をくれるし、事務局メンバーも「大丈夫ですか」って声をかけてくれて、その気遣いに本当に救われました。祐利奈ちゃんも「ブロック大会の大懇親会だけでも来てください」と誘ってくれました。つらいときに気にかけてくれる仲間がいる。そのありがたさを感じた年でした。本当にありがとうございました。

今年は会員能力向上委員会で、卒業予定者としてのびのびと活動させてもらっています。徳永委員長も大変な時期ですが、本当に頑張っています。皆さん、委員会メンバーを誘って、ぜひ事業に参加してください。絶対素晴らしい本事業になると思います。

こうして8年間を振り返ると、いつも誰かが気にかけ、支えてくれていたことに、改めて気づきます。私は、委員長のときも、会社のことで苦しかったときも、仲間の言葉や行動に支えてもらいました。人が困っているとき、何と声をかければいいのか迷うこともあると思います。それでも気にかけてくれる人がいるだけで、救われることがあります。理事でもフロアメンバーでも、誰かの力になれると思います。口には出さなくても、困っている仲間がいるかもしれません。少しおせっかいでも、声をかけ、手を差し伸べられる。そういう人たちが集まる団体であってほしいと思います。

そして、これから皆さんも、「この役をやってくれないか」と声をかけられると思います。JCの役職は、自分がやりたいと思うだけでは就けません。皆さんに選んでもらい、任せてもらって初めてできます。その機会が来たら、ぜひ挑戦してみてください。その立場になって初めて見える景色や、得られる学びが必ずあります。

JCの現役生活は40歳までです。長いようで、本当にあっという間でした。この限られたかけがえのない時間を仲間と楽しみ、家族や

社員への感謝を忘れず、思い切り挑戦していただけたらと思います。

JCに入って皆さんと出会えたこと、そして、これまで関わり、支えてくださったすべての皆さんに、心から感謝申し上げます。

以上をもちまして、私の卒業生スピーチとさせていただきます。8年間、本当にありがとうございました。



半田 祐喜

最近、飲みの席でハメを外してしまい、いろいろな方にご迷惑をおかけしてすみません。皆さんのおかげで、最終年を楽しく過ごさせていただいています。

まずは、私がJCに入会したきっかけからお話しさせていただこうと思います。私は高校卒業後、大阪の専門学校で絵の勉強をしていました。その後、大阪のデザイン事務所に就職し、10年ほど大阪で過ごしました。いつかは尾道に帰ってきたいと思っていたので、子どもが小学校に入学するタイミングでフリーのデザイナーとして独立し、地元である向島に帰ってきました。大阪の仕事ばかりをしていたこともあり、尾道の人たちと交流したい、そして尾道のお祭りにも関わりたいと思ったことがきっかけで、JCに入会しました。

入会してすぐに参加したベッチャー祭りでは、まだメンバーの皆さんとも馴染めていなかったので、ひたすら神輿を担いでいました。気がつけば肩から流血していて、終わったときに祭りの関係者の方から「お前、JCだったんか！」と驚かれたことを覚えています。それ以来、ちょっと怖くなって、あまり神輿を担ぎたくなくなりました。

入会1年目は、小川先輩が委員長、大本先輩が副委員長という、今でも大好きな先輩方が率いる社会開発委員会で、幹事を務めさせていただきました。社会人としてのルールもJCのことも何も分からず、本当にご迷惑をおかけしてばかりだったと思います。JCを辞めたいと相談したときも、皆さんが親身になって話を聞いてくださいました。そんな皆さんの顔に泥を塗りたくないという思いもあり、頑張って続けることができました。ただ、1年目の委員会は本当に楽しかったです。例会の出席率100%で委員会名を何度か呼んでいただいたときは、とても誇らしく、うれしかったことを覚えています。その年の後半は、新型コロナウイルスの影響で表立った活動ができなくなりましたが、1年目がこの委員会でなければ、ここまで続けてこられなかったかもしれません。私が委員長になったら、小川先輩のような委員長になりたい。こんな委員会にしたい。そんなことを思っていました。そして、この委員会では、私が最後の現役メンバーとなってしまいました。少し寂しいですが、これからも幹事として可愛がってください。

2年目は、吉田嵩正委員長のもとで拡大活動に取り組みました。ただ、この年のことはあまり記憶がなく、あまりお役に立てなかったことを申し訳なく思っています。

3年目は、委員長として青少年育成委員会を担当させていただきました。高橋建太先輩が副理事長だったのですが、のびのびと自分のやりたいことをやらせていただき、本当に楽しい委員長生活を送ることができました。年上のメンバーばかりの委員会でしたが、幹事のときも同じ委員会だった卒業予定者の大本先輩は、率先して委員会に参加し、盛り上げてくださいました。山本先輩は、まるで副委員長かのようにいつも気にかけてくださり、JC歴は1年先輩、年齢も1歳上ということで、私にとってお手本となる存在でした。

4年目は、副委員長として、高垣裕吉先輩が委員長を務める組織活性化委員会に配属されました。委員長を終えたはずなのに、上程資料の制作からアジェンダへのアップロードまで、ほぼ私がやることになり、ダークサイドとして頑張りました。今だから言えますが、こんなに頑張っても褒められるのは委員長なので、少し落ち込んだときもありました。幹事の祐利奈ちゃんは、周りへの気配りが、私がこれまで見てきた誰よりもできる人でした。妹のようでもあり、ときには姉御のようでもある存在で、委員会の雰囲気を明るくしてくれました。もう一人の幹事、康聖は歌が上手いです！幹事の2人がいつも出席してくれたからこそ、この委員会は盛り上がったのだと思います。そのほかにも愉快な仲間が揃った委員会で、打ち合わせよりもアフターが中心になってしまい、事業もなかなか完成せず、当時の岡本副理事長にはご迷惑をおかけしました。本事業の打ち上げでは、裕吉委員長と2人で号泣しました。JCでこんなに号泣する日が来るとは思ってもいませんでした。大変なことも多かったですが、それだけに達成感のある1年でした。

5年目は、悟くんが委員長を務める委員会でした。悟くんは、先輩にも敬語を使わないのに、なぜか腹が立たないし、むしろ可愛く思えてしまう、不思議な魅力を持っています。幹事の寺本くんについては、最初はJCに馴染めるのかなと心配していました。しかし、今年はセクレタリーとして、みんなが円滑に活動できるように裏方で動き回ってくれました。来年は周年委員長という大役を任されるまでになり、今後の活躍を楽しみにしています。そして、慈大くんは誕生日にシャトレーゼのお菓子をくれます。また、この年は悟キャプテン率いる野球チームが県予選で2位になり、中国地区大会に出場することができました。準決勝の広島JC戦での小迫さんのサヨナラヒットは、本当に痺れました。

6年目は、山本先輩が理事長を務められた年に、これまでお世話になった恩返しができればと思い、副理事長を務めさせていただきました。委員長の諒祐は、資料の制作や日本語の表現には苦労していましたが、人望があり、やると決まってからの行動力には本当に感心しました。森田先輩が副委員長だったので、私も悩みや不満を吐き出させてもらいましたが、うまく委員会をまとめていただき、とても助かりました。幹事の健太郎は、まだ若く、今は真面目なキャラクターでやっていますが、もう少しすればブイブイ言わせるようになると思います。荒川くんは、おとなしそうに見えますが、カラオケでミスチルを歌います！

そして最終年は、徳ちゃんが委員長を務める委員会に配属されました。前年の委員会では委員長の右腕のような存在だったので、最終年は何も苦労せずに卒業できるものだと思っていました。ところが、最後の最後まで楽しませてくれそうです。遠方のイベントにも多くのメンバーが参加してくれて、卒業予定者として敬っていただき、本当にありがたく思っています。本事業も、みんなで頑張りましょう！

最後になりますが、何度も辞めたいと思ったJCでしたが、卒業まで続けることができて、本当によかったと思っています。JCを続けてきたからこそ経験できたこと、そして出会えた仲間は、私にとって一生の宝物です。こんな私と仲良くしてくださった先輩方、同期卒のメンバー、そして現役メンバーの皆さん、本当にありがとうございました。